

第2回 横浜市狩場緑風荘指定管理者選定委員会 会議録	
開催日時	平成27年8月4日(火) 14時00分～16時15分
開催場所	保土ヶ谷区役所2階 202会議室
出席者	〈委員〉 福田委員長、遠藤委員、金子委員、野川委員、山崎委員(以上5名) 〈事務局〉 名木課長、高橋(勝)係長、川崎、高橋(友)(以上4名)
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴者:1名) ※議題3以後非公開
議題	1 オリエンテーション 2 応募団体面接審査 (1) プレゼンテーション (2) 質疑応答 3 意見交換、評価シート記入 4 指定候補者の決定
議事	<p>1 オリエンテーション 選定委員会の進め方、応募結果、評価・選定方法等について事務局より説明。</p> <p>2 応募団体面接審査 (1) プレゼンテーション 応募団体によるプレゼンテーションを約20分実施。 (2) 質疑応答 委員からの質疑と応募団体による応答を約20分実施。 主な質疑応答の内容は以下のとおり。</p> <hr/> <p>委 員：保土ヶ谷区民以外の利用者も多いと聞いているが実態はどうか。 応募団体：南区民、戸塚区民の利用も多く、利用者数は保土ヶ谷、南、戸塚の順で多くなっている。</p> <p>委 員：南区や戸塚区民の利用も想定しての提案ということですか。 応募団体：その通りである。</p> <p>委 員：講座や教室が充実しているが、1人が重複しての受講や、リピーターも多いのか。 応募団体：趣味の教室は半年毎の開講だが、同一期間内では1人1講座のみ受講可能。教室以外の単発講座はいくつでも受講可能である。</p> <p>委 員：仲間づくりの実態はどうなっているか。 応募団体：スタッフが様々な情報を利用者に提供して仲間づくりの手助けをしている。また、趣味の教室では名札を着用しお互いに名前呼び合うことで仲間意識を醸成しており、教室修了者たちは研究会やクラブへ発展している。</p> <p>委 員：立地条件もあるが、保土ヶ谷区民の利用者の割合が少ない。催しの情報等が保土ヶ谷区の地域に全く入ってこない。近隣の岩崎小や初音ヶ丘小は高齢者が多い地域なので、掲示板等を活用する等、自治会、老人会等をもっと利用すべきと考えるが、広報など周知方法はどのように考えているのか。</p>

応募団体：現在交流を行っている小学校以外にも、岩崎小など周辺地域との交流についてもこれから広げていきたい。

委員：収支のうち人件費の割合が多いが、職員とスタッフの区別はどうなっているか。

応募団体：職員は月給制、スタッフは時給制。職員は全体の統括、運営方針の検討、設備点検や小破修繕を行い、スタッフは現場の第一線で利用者対応を行っている。

委員：スタッフの入れ替りは多いのか。

応募団体：ベテランのスタッフが退職すると、代わりの新しいスタッフを入れている。

委員：区内の65歳以上の人口は増えているにも関わらず、利用者は減っている。利用者を増やすためには、新たな魅力のある取り組みが必要ではないのか。

応募団体：ホームページの活用、自治会・町内会への広報・宣伝に加え、企画や行事の内容を充実させていく。緑風荘まつりの来場者が多いことから、潜在的には高齢者がいるので、どう取り込んでいくかが今後の課題である。

委員：今後、利用者の年齢幅も広がってくるが、世代差を意識した取り組みや、逆に世代間交流を図る等、今までとは違った新たな取り組みがないと、新規の利用者が増えないのではないのか。

応募団体：65歳で退職という時代で、元気な方が多く、「老人」という言葉に抵抗がある人が多い。元気で自立した人が地域で活動するための施設だということアピールしていく必要がある。老人福祉センターのオープンキャンパスを開催し、何をしている施設なのかを理解し活用してもらいたいと検討している。地域での活動支援やボランティア紹介等のメニューを取り入れていきたい。

委員：そのような相談に対応可能なスタッフの配置が必要になるのではないのか。

応募団体：所長・副所長ら職員がノウハウを取得し相談に対応できるようにしていきたい。

委員：老人人口では女性がかんりの比率を占めているが、平成26年度の利用人数を見ると女性よりも男性の方が多いのはなぜか。

応募団体：風呂、卓球、大広間等の自由利用は男性、趣味の教室は女性が多い。全体で見ると男性が多くなっている。

委員：老人福祉センターを3館運営しているが、3館の連携は何か行っているか。

応募団体：月に1度会議を開催し、情報交換を行っている。スポーツやイベントで使用する道具の共有や、講師情報の交換等も行っている。

委員：風呂の利用者が多いと思うが、風呂がないと利用人数が激減してしまうのではないのか。施設も老朽化してきて危険が多くなっているが、どのように対応しているのか。

応募団体：風呂の水温を冬場は42度、夏場は41℃の設定にしていたが、救急車の要請が非常に多かった。冬場を41度に下げたところ、苦情が多くなり苦勞したが、年間20件ほどあった救急要請がほとんどなくなった。

委員：苦情対応についてどのように考えているのか。

応募団体：初期対応がしっかりできるかが重要。苦情対応にはノウハウが必要なので、職員だけでなくスタッフにも研修やOJTでノウハウを身に付けてもらい、責任もって対応できるスタッフを配置していく。苦情もしっかりと聞くと、施設運営のヒントになる。

3 意見交換、評価シート記入

- (1) 応募団体の市税納付状況、暴力団経営支配法人等の該当の可否、現指定管理者の管理運営状況について事務局より説明。
- (2) 応募団体の財務状況について、金子委員より説明。特に大きな問題はなく、5年間は問題なく指定管理を行うことができると判断した。
- (3) 提案内容について委員による意見交換を実施。

<主な意見>

- ・施設から遠い地域に住む人たちに、どのようにアプローチするかという点の提案がみられなかった。インターネットやホームページを活用するのはもちろんだが、もっと現実味のある施策が必要。
- ・ノウハウはあり、運営に関して不安はないが、これからの高齢者の状況を考えた際に、今回の提案内容だけでは不十分。
- ・広報活動や啓発はあまり評価できない。自分の居住地域には、狩場緑風荘の情報はなかなか入ってこない。自らインターネット等で調べないと情報を得られないのが現状。
- ・これからの時代、すごく大事な施設だと思う。認知症対策も重要な社会的問題になるので、このような施設が認知症予防に一役買ってくれれば良い。
- ・相談業務が今後は重要。健康相談が月2回というのは少ない。充実させるには、人を配置し、健康相談を実施していることをアピールする必要がある。
- ・地域の民生委員とどういう関わりをしているのか。
- ・先日施設を訪れたが、施設が古い割には掃除も行き届いており、少ないスタッフでよく対応できている。ゆったりしていて非常に居心地の良い施設なので、保土ヶ谷区民にもっと宣伝してほしい。
- ・会議室の稼働率が50%弱である。近頃は多くの地域活動グループが、活動場所が少なく困っている状況なのに、どうして利用されていないのか。交通の便が悪いからなのか。
- ・質疑応答でスタッフの定着率を質問したが、質問に対する答えが得られなかった。定着率は施設の良し悪しの目安になるが、実態がわからない。スタッフが最前線で利用者に接しているので、実態を見ていると思う。
- ・緑風荘まで行くには、坂や階段もあり、高齢者にはつらい。岩崎地域ケアプラザ等もまわる巡回バスがあれば行きやすくなるのではないかな。
- ・潜在している人たちを、自治会・老人会を利用して掘り出していくことが必要。

4 指定候補者の決定

各委員の評価点を集計した結果、525満点中351点となり、最低基準点(300点)も満たしているため、公益財団法人横浜市老人クラブ連合会を指定候補者として決定した。

<p>講 評</p>	<p>これまでの管理運営ノウハウを有効に活用した安定的な管理運営が今後とも期待できる。また、高齢者に配慮した環境整備や、多彩な内容・形態の教室やイベントを開催している点は評価できる。</p> <p>安定した運営の一方で、今後の高齢者増加に対応するには、従来どおりの対応ではうまくいかないことが想定されるので、多様な利用者に対応できるよう、新規事業の展開等について検討する必要がある。また、利用者が減少している状況において、利用者の増加や、会議室の稼働率向上のための具体的な提案が見られなかったため、自治会・町内会へのアプローチ等、PR活動について検討する必要がある。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>1 資料</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 横浜市狩場緑風荘指定管理者選定委員会委員名簿 (2) 席次表 (3) 選定委員会の進め方等について (4) 応募団体提出書類 (5) 評価シート (6) 現指定管理者運営実績資料 (7) 財務状況説明資料 <p>2 特記事項</p> <p>選定結果については、保土ヶ谷区長に報告後、指定候補者に通知し、保土ヶ谷区ホームページで公表を行う。</p>